

平成28年度第1回伏見区基本計画推進区民会議

日時：平成28年5月16日

場所：伏見区役所4階中会議室

## 1 開会、伏見区長挨拶

本日はお忙しい中、平成28年度第1回伏見区基本計画推進区民会議に御出席いただき感謝申し上げます。また、座長や副座長をはじめ、委員の皆様には、日頃、伏見区政全般に大変御理解・御協力をいただいていることに、心からお礼申し上げます。

この会議は、伏見区のまちづくりの10年間の指針となる伏見区基本計画を着実に推進していくうえで、区民の方々の御意見を幅広く反映させるために設けたもので、今回で6年目を迎える。この間の取組で、区民の方々のまちづくりの取組は着実に広がってきていると実感しているところで、大いに心強く感じている。

熊本県を中心に大きな地震が起き、大きな被害が出ている。伏見区でも3年前に台風18号により大きな被害が出たが、災害に強いまちづくりの大切さを改めて認識した。また、警察署や消防署と協力した犯罪の少ないまちへの取組も重要であると考えている。それらをベースに、少子高齢化や人口減少を見据えた健康・長寿、子育て支援の取組、また、まちに息づく歴史や文化を再認識し、守り育てることや、観光客を含めた賑わいづくりも住みやすいまちづくりにとって大切だと考えている。

本日は各界で御活躍の委員の皆様が取組に関しての貴重な御意見を賜るようお願いしたい。

区役所としても、この度4月に着任した深草担当の岩井区長、また醍醐担当の三宅区長の3人が共にこれから取組を進めていく。

結びに、本日の会議が実りあるものとなるようお願い、挨拶とさせていただきます。

## 2 委員紹介

## 3 座長挨拶

本日は活発な意見交換の場にしたい。先日、伏見を紹介する「ブラタモリ」が放送され、高視聴率だったようだ。伏見稲荷に多くの外国人観光客が訪問していることはマスコミでも紹介されるが、今回は伏見の地形や桃山の武家屋敷の跡地の話が紹介されており、従来はあまり着目されなかった伏見の魅力が評価された。ますます伏見が注目されるきっかけになるのではないだろうか。京都全体を見ると、文化庁の京都への移転決定を受け、市政も文化に力を入れていく姿勢が見られる。また、東京オリンピックに向け、国もインバウンド観光に取り組んでおり、歴史も含め文化が再評価される機運が高まっている。今後、外国人客をいかに受け入れて

いくかが、さらに重要になる。ただ一方で、観光振興が、住民にとっていかに住みよいまちにするのかということと対立してはいけない。外国からの訪問客の受け入れと、住民目線でのまちづくりとの両方のバランスを考えなければならない。本日は様々な視点から意見をいただき、「住みたい、住み続けたいまち・伏見区」を目指し、より良いまちにするための意見をお願いしたい。

#### 4 事務局からの報告等

- (1) 平成28年度伏見区運営方針
  - (2) 伏見区区民活動支援事業について
  - (3) 伏見区基本計画重点戦略「融合プロジェクト」について
- (事務局から説明：資料1～3)

(座長)

区民活動支援事業については、今年度、土曜日・夜間相談会等を開催し、応募書類に不慣れな方等へのケアを行った。こうしたことを機に、従来の活動に加えて新しい活動が生まれることに期待したい。

#### 5 意見交換

- ①世界一安心安全・おもてなしのまち京都の取組について
- (事務局から説明：資料4)

(岩井委員)

海外から多くの人々に来てもらうのは良い事だ。しかし、受け入れ側の準備がまだ整っていないとは言えず、マナー啓発をホテルや旅館などと協力しながら、受け入れ態勢を整えることが大切。各団体や地域と連携しながら、「伏見に来てよかった」「また来たい」と思ってもらえるような地域づくりをしていきたい。

(座長)

伏見稲荷大社で参拝の作法、ゴミの捨て方が地域の中で問題化し、昨年、深草支所で作法ガイド(5カ国版)を急遽作成、配布した。

(田中委員)

安心安全の取組について、熊本の地震もあるが、防災面からの「安心安全のまちづくりの取

組」は実施されているか？

(事務局)

ここでの安心安全の取組は、主に防犯活動である。防災の取り組みはまた別途実施している。

(座長)

安心・安全の枠組みとは別に水害に備える取組等は行っている。

(事務局)

資料1運営方針1（資料1運営方針：7頁・24，25）。

防災の取組としては、災害に強いまちづくりとして、地域の防災・関係団体が行う学区、自主防災会実施の訓練への支援や、運営マニュアル策定、改定支援を行っている。消防等と連携し、各機関の連携体制も整備している。

(区長)

伏見区には35の学区があり、学区の防災訓練実施や消防局、消防団、水防団の連携をバックアップしている。

(座長)

伏見区は水害や地震など、災害の種類に応じ、場所ごとの防災計画を考えていくことが大切。質問ですが、学生の安心安全の取組の「学生」は大学生中心にという意味か？

(事務局)

深草管内には3大学あり、他地域より学生が多い特性をもつ。昨年度は特に性犯罪が頻発している状況を取り上げ、女子学生と地域の女性交番（なでしこ交番）の女性警察官と一緒に街歩きを行い、防犯マップを作成した。また、自転車等の盗難に備えた取組も実施し、今年度も継続する。

(高橋委員)

昨日、消防の集まりがあったが、きびきびと動く女性が目立った。地域の中で大学生に声をかけ、地域の中にしっかりと学生が浸透しており、評価したい。熊本の地震などでは、地域と関係づくりを取れていない人が被災したり、困難を抱えていたりするようである。醍醐支所が実施した「知っていますか、あなたの町の自治会、町内会」は地域内での関係づくりや防災の対策を進めるいい取組であるため、伏見区全体で取り組んでいくべき。

(加藤委員)

町内会・自治会レベルの取組が重要。安心安全の働きかけと災害避難時の働きかけは連動している。身近で孤立しそうな人の把握や、出向いて関係をつくることが非常に重要。大学については、龍谷大学生が消防団が加入しており、地域は非常に喜んでいる。このようなことをもっと取り上げ、発信しても良いのでは。安心安全は監視社会ではなく、見守りの社会へ。孤立しがちな方が今後増えていく。日常的にそうした方へ出向いて行きアクセスできれば。また、災害時に力を発揮できる中学生の活用も検討できないか。

(小倉委員)

大学生と連携もよいが、他都市から来た学生が卒業した後のサポートを意識したい。卒業して終わりではもったいない。消防団服の物品などの使い回しや引き継ぎをしっかりとできるような取組を行政がバックアップできないか。

(事務局)

現状、どのような運用を行っているかはわからないが、引き継ぎの工夫を行っているようであれば、検討していく余地はある。

(高橋委員)

今までは学生も4年間で地域から去ってしまい、終わってしまうと認識していたが、学生たちが地元に戻り、京都での経験を発信していくこと、地域で根付いていくことに期待する。「次世代を育成している」という視点を持って関わりたい。

## ②健康長寿・子育て支援の取組

(事務局から説明：資料5)

(加藤委員)

健康・長寿で一番怖いのは「孤立化」。催しの場に出て来ることができる人は良いが、出てくることができない人にどう働きかけを行うかが重要。誘いかけや背中押しができる地域の人の組織化が急務。そうした取組は行っているか。

また、子育てについて、悩みを抱える人へ呼びかけても、なかなか来る人が少ない。子どもを預かりながら、お母さんが「だべる」場づくりも大事。困ったことが話されやすくなるのでは？そうした誘いかけはしているか？

(事務局)

孤立している方への対応の一つとして、健康づくりサポーター制度がある。伏見区総合庁舎では毎週水曜、体操を行っている。また、外出できない方への対応として、広く発信するためのリーフレットも作成する予定。地域の高齢者への訪問としては、地域の老人福祉委員や介護予防推進センターによる訪問は行っているが、お声掛けしても出てきていただくことが難しい方に、どう対応していくかが今後の課題。

地域包括支援センターが中心となり民生委員、社協の役員、消防団等が連携して一人暮らしの高齢者への誘いかけを行っている。地域での交流サロンへの呼びかけや、関係機関の中で情報の共有を行っており、引き続き継続して取り組みたい。

また、子育ての孤立化も同様に大きな課題である。保健センターで、子どもの生後4ヶ月以内に保健師による各家庭の訪問を実施している。その流れで、それ以後の子育て支援として民生児童委員による定期的な訪問も行っている。民生児童委員などが、利用者にとって身近に感じてもらえるような取り組みを進めるとともに、利用の拡大に努めていく。

(山本委員)

私の町内では、近隣の町内のボランティアが協力し月1回の例会を行い、引きこもりがちな人の顔合わせを行っている。取組をする上で、予算の問題が大きい。少額の参加費に加え、無料で講師を招へいするなど工夫は行っているが、資金的な支援や常に集まる場所の支援があれば、地域発で声掛けする取組がもっと広がるのではないかと思う。

(久保区長)

高齢者や子どもの身近な地域での居場所づくりの拡充など検討している。それに特化した事業ではないものの、各地域で課題意識をもって、民生児童委員等を中心に積極的に取り組んでいるところもある。多世代で交流する場は必要となると思うので、関係局と共有し、検討していきたい。

(南委員)

子育て支援について、民生児童委員もしている。保健センターの家庭訪問に引き続き、情報提供を求める家庭から連絡を受け、民生児童委員が訪問する仕組みだが、「訪問までは望んでいない。情報だけが欲しい、定期的には必要ない。」という家庭があるなど、ニーズと情報の連携がうまく連動していない現状がある。ニーズをきちんと把握し、利用者を広げるための工夫が必要。情報誌も継続して渡していくことが大切。

(事務局)

利用者の拡大については、引き続き努力していきたい。各世帯への情報提供について、ニーズは様々で、情報誌の投函だけでよいのか、毎月訪問を必要としているのか、お母さん方の各々のニーズは汲み取りながら、対応していきたい。

(岩井委員)

民生委員、老人福祉委員、地域包括の訪問など行っているが、訪問拒否などもある。地域に入っている人は「すこやかサロン」など情報（チラシ）も配布しているが、独居で地域に参加していない人には情報が行き届かない。

最近では、地域包括・民生・社協と連携して取り組んでいる。昼食も全て手作りでおもてなししている。参加者は、喜んで帰ってくれる。温かみを持って対応したら、「リピーター」が出てくる。「みんなに来てもらう」意識で受け入れている。社会的に様々な事件あり、警戒されるお年寄りもいる。顔見知りの近所の方と一緒に訪問するなど工夫も必要。苦勞あるが、少しずつ浸透していければどうか。

### 3 観光振興に関する取り組みについて

(事務局から説明 資料6)

(山本委員)

深草トレイルのコース沿いに住んでいるが、マップ作成を機に、歩いている人が増えたと感じる。中高年を中心に、とても楽しんでいるようである。他の地域でも「酒蔵コース」、「名水コース」など分かりやすいマップを作成してはどうか。

(事務局)

地域の方々から意見をいただきながら、新しい観光コースの発掘や発信も検討している。

(田中委員)

伏見は水だけではなく、鳥羽街道、竹田街道など、道に関する歴史遺産なども多い。観光客向けだけではなく、地元の人間が美意識を感じ、日常的に感銘を覚えるような景観づくりを期待する。目に見えない部分の美化も大切。

## 6 その他

(西田委員)

青少年活動センター活動では、今年は、非行対策として、中学生を対象に取り組んでいきたい。喫煙など問題化。柔道等により、中学生の非行対策にも取り組んでいく。

(谷内口委員)

エコロジーセンターの取組としては、エコ学区の取り組みなど。祇園祭のごみゼロ作戦にも参入する。ここで得たノウハウを学区ごとの地域イベントへも応用できないかを検討したい。防犯や観光なども連動していると感じる。まちがきれいなところは防犯率も低い。エコセンは環境問題だけではなく「まちづくり」の視点を持って、何か関与したい。民泊の件について。滞在時終了後に、ごみを放置していく観光客も増えているように感じているが、これへの対応は取組として検討してほしい。

## 7 副座長挨拶

安心安全，健康長寿，文化観光，様々な取組があるが，特に伏見区運営方針に記載されている事業は一番重要だと思う。このことを今一度確認したい。温かみのある事業や「住みたい」，「住み続けたい」思えるようなまちづくりができるよう，ソフト面，ハード面から議論してきたが，これが伏見の矜持と思えるようなものを出していけるよう，それぞれの立場で頑張ってもらいたい。よろしくお願ひしたい。

## 8 閉会